

世界での影響予測

温室効果ガスの排出が高いレベルで続く場合（RCP8.5シナリオ）今世紀末（2081～2100年）の世界の平均地上気温は、1986～2005年を基準として、最大で4.8℃上昇すると予測されています。

IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）によると、2081～2100年の世界平均気温の1986～2005年平均に対する上昇量は、最も温暖化を抑えた場合（RCP2.6シナリオ）では0.3～1.7℃、何も対策をせず最も温暖化が進んだ場合（RCP8.5シナリオ）では2.6～4.8℃の範囲に入ると予測されています。

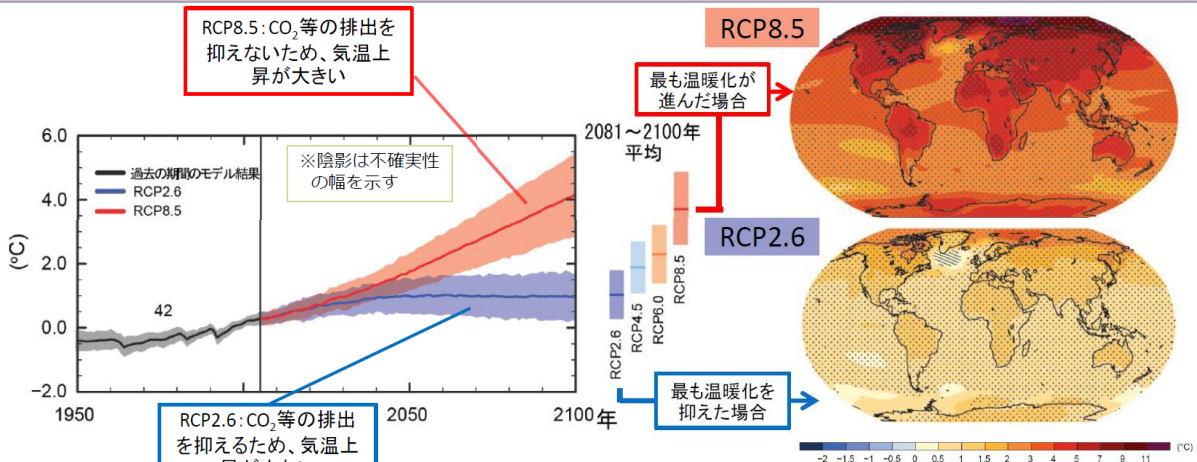


図. 1986-2005年平均に対する世界平均地上気温の変化
CMIP5の複数モデルにより
シミュレーションされた時系列(1950年から2100年)

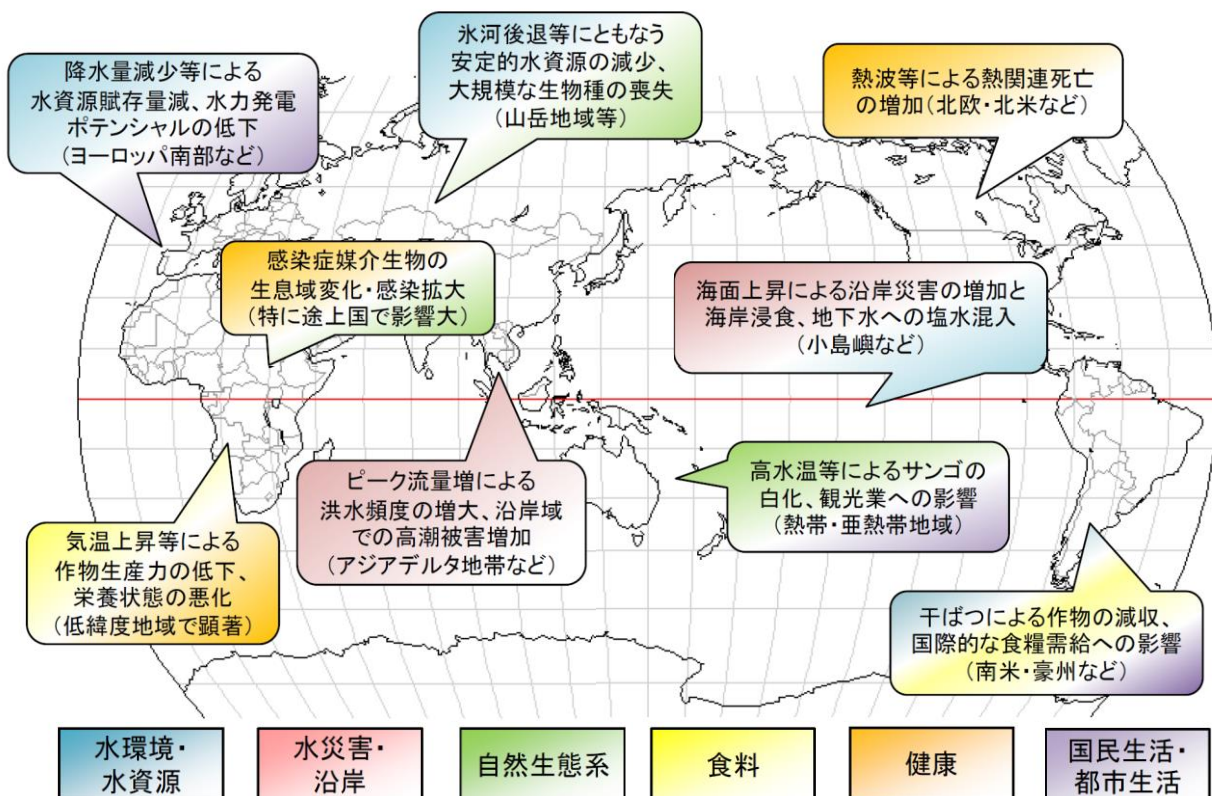
出典: 図, IPCC AR5 WG I SPM Fig. SPM.7(a)

図. 年平均地上気温の変化
(1986-2005年平均からの偏差)
2081～2100年におけるRCP2.6と
RCP8.5のシナリオによるCMIP5複数モデル平均の分布図

北極域は世界平均より速く温暖化し、陸上における平均的な温暖化は海上よりも大きくなるだろう(非常に高い確信度)
(IPCC AR5 WG I SPM p.20, 21-22行目)

出典: 環境省

世界各地で予測される深刻な影響



出典: 環境省